

(S2018-27 用)

研究課題名	日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会：本邦における卵巣癌（上皮性腫瘍）に対する妊孕性温存治療に関する実態調査に対するご協力をお願い
研究期間	調査期間：2019年 2月 6日 ～ 2020年 3月 31日 調査対象：2009年 1月より 2013年 12月の間に手術が行われた AYA 世代（15～39歳）の卵巣癌（上皮性腫瘍）に対し妊孕性温存を目的とした治療を施行された患者さん
研究の目的と意義	この研究は日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会として行われ、小児期および通常成人女性の谷間の世代である思春期および若年成人世代である AYA 世代に着目し、AYA 世代における卵巣癌の治療前情報、治療方法、妊孕性温存方法、治療後妊娠転機等について調査することを目的としたものであり、皆様の今後の診療にも役立つことができると考えています。
研究方法	全国で 2009年 1月より 2013年 12月の間に手術が行われた AYA 世代（15～39歳）の卵巣癌（上皮性腫瘍）に対し妊孕性温存を目的とした治療を施行された患者さんを対象に、患者さんのカルテより、治療前情報、治療方法、妊孕性温存方法、治療後妊娠転機等を中心とした情報※を収集します。取得した研究対象者の情報を日本産科婦人科学会腫瘍委員会「本邦における卵巣癌に対する妊孕性温存治療に関する実態調査」へ送付し、詳しい解析を行います。 目標症例数は 1,000 例で、当施設を含む全国の日本産科婦人科学会専攻医指導施設（約 630 施設）が研究に参加します。
個人情報の保護、研究参加の拒否について	本研究で取り扱う患者さんの情報は個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものか一切わからない形で日本産科婦人科学会から提供され、使用します。患者さんの情報と個人情報を連結させることはありません。 また、この研究にご自身の情報を使用されることに同意されない方は、担当医師へご連絡ください。解析対象から除外させていただきます。
結果の公表	研究で得られた結果は、学会、医学専門誌への発表を予定していますが、その際にも、患者さんの名前など対象者を特定できる情報は含まれません（公表する結果は統計的な処理を行ったものだけです）。
問合せ先	京都第二赤十字病院 産婦人科 （職名・氏名）部長・藤田 宏行 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355-5 TEL：075-231-5171（代） FAX：075-256-3451（代）

<p>研究実施機関</p>	<p>日本産科婦人科学会腫瘍委員会 「本邦における卵巣癌に対する妊孕性温存治療に関する実態調査」に関する小委員会 聖マリアンナ医科大学産婦人科学 教授 鈴木 直 新潟大学医学部産婦人科 教授 榎本 隆之 東海大学医学部産婦人科 教授 三上 幹男 千葉大学医学部産婦人科 教授 生水 真紀夫 筑波大学医学部産婦人科 教授 佐藤 豊実 名古屋大学医学部産婦人科 准教授 梶山 広明</p> <p>日本産科婦人科学会専攻医指導施設（約 630 施設）</p>
<p>情報※</p>	<p>取得する情報は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術時年齢 2) 手術前結婚歴 3) 手術前妊娠既往 4) 手術前月経歴・月経異常等 5) 手術前挙児希望の有無手術前 CA125 値 6) 手術前の卵巣予備能検査施行の有無 7) 初回手術実施日 8) 手術方法 9) 術後進行期、 10) 病理組織分類 11) 術後化学療法の有無 12) 治療後卵巣予備能 13) 術後不妊期間 14) 治療後結婚歴・月経歴・月経異常 15) 治療後挙児希望 16) 治療後妊娠の有無 17) 妊娠時合併症の有無 18) 妊娠転機 19) 分娩形式 20) 分娩週数 21) 再発の有無 22) 再発日 23) 再発日治療 24) 再発時の妊孕性温存治療の有無 25) 最終生存確認日 26) 最終生存確認時の転帰